

地理学的な見方 ・考え方とは？

いろいろな物事の地理的・空間的な広がり注目して、そのパターンや特徴を捉え、それが作り出されるメカニズムや、広がりやの違いから生じる地域間の差異などを読み解き・考察していくのが、「地理学的な見方・考え方」をするということです。

地理的・空間的な広がりとはごく簡単に実感して、それについて考えることができる場合もある一方、地理学的素養が蓄積されて、ようやく見えてくる場合もあります。また、もともと見えないものについては、観測やデータ収集を通じてこそ、その広がりやを把握することができます。

地理・環境専攻では、自然環境科目群、人間環境科目群、地域環境科目群の履修を通じて地理学的素養を育み、観測やデータ収集の方法や考え方を情報調査科目、調査研究科目の履修を通じて学んでいきます。それを通じて、専攻生が「地理学的見方・考え方」ができるようになることを大きな教育目標としています。

■ 詳しい情報は…

文学部地理・環境専攻ホームページにあります。授業内容・カリキュラムの説明などの真面目な情報だけではなく、「今月の地理写真」「今月の衛星写真」など、毎月更新される読み物企画もある、読んで楽しいホームページです。



<http://bungakubu.kokushikan.ac.jp/chiri/>



国土舘大学 文学部 地理・環境専攻

〒154-8515 東京都世田谷区世田谷 4-28-1
TEL:03-5481-3231 FAX:03-5481-3328
<http://www.kokushikan.ac.jp> (大学)

国土舘大学



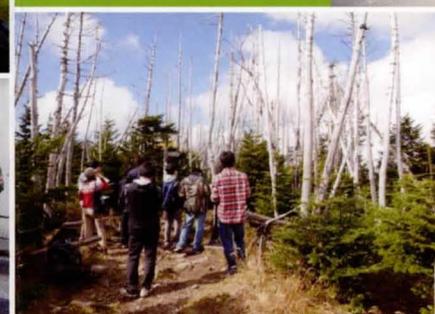
文学部 地理・環境専攻



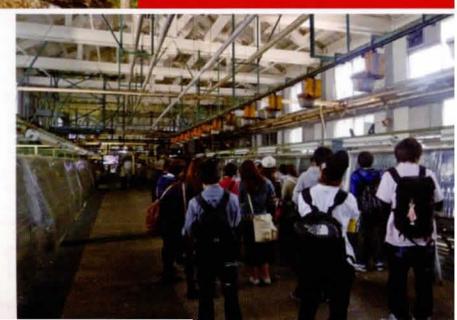
ご案内



Department of Geography & Environmental Studies



Kokushikan University



地理・環境専攻で 学ぶこと・考えること

ちょっと難しい話から始めましょう…。

私達が住む世界は、空間的な広がり（空間軸）と時間の広がり（時間軸）とによって構成されています。前者が地理学の、後者が歴史学の研究対象となります。ものごとの空間的な広がりの中には、規則性や方向性、あるいは偏りや特異性・例外性、さらには広がりそのものの限界性など、さまざまな興味深い現象がみられます。こうした空間的広がり、あるいは分布を研究対象とし、それに関する理解を深めつつ、そのメカニズムや法則性を検証する、というのが地理・環境専攻で学ぶこと・考えることです。

私達が住む世界の空間的広がりが「環境」そのもので、環境とは単に自然環境を指すのではなく、社会・経済・文化の広がりなどの人文的側面も含む言葉です。本専攻では、自然的・人文的環境の実態やその問題に対し、「地理学的な見方・考え方」を中心にして、学び、考え、取り組んでいます。

机上の学問だけ ではダメ

「地理学的な見方・考え方」を机上だけで身につけることは困難です。また研究対象が、「環境問題」など、今まさに動いている問題であればこそ、学んだ知識がすぐに陳腐化してしまう場合もあります。新たな知識をもとにあらためて考えていく反復作業が必要で、それを身につけるためには、自らデータを収集し、処理・加工し、それらをもとに考える実践が必要です。

地理・環境専攻では野外実習科目（必修）を設け、実践を通じて作業手法を体得できるようにしています。地理学野外実習A（1年次）と地理学野外実習B（2年次）は1泊、地理学野外実習C（3年次）は3泊の泊まり込みの実習で、日本各地に出かけて現地（フィールド）で実習を行います。

情報調査科目もその多くが、自らデータを収集・加工・処理し、それをもとに考えていくための、室内・外での実習を中心とする科目です。

また希望者は数年おきに開催される海外研修に参加する機会もあります。これまでフィリピン、台湾、中国での研修が行われてきました。

地理学的な見方・ 考え方を社会で 生かす

身につけた「地理学的な見方・考え方」は社会でも役立ちます。生きていれば、さまざまなレベルの「未曾有」・「想定外」の問題が目前に立ちふさがることでしょう。その時も問題に関するデータを収集・処理・加工し、それをベースに考え、問題に立ち向かわねばなりません。距離・濃度・影響などデータそのものの観測がまず必要なこともあります。

そうした「現場」（地域）で役立つ能力（見方・考え方）を身に付けた証しとして「地域調査士」（（財）日本地理学会認定）という資格があります。地理・環境専攻で学ぶと、比較的容易に、その資格を取ることが可能です。

また国士舘大学文学部では地理・環境専攻でのみ取得可能な資格として、「GIS 学術士」、「測量士補」があり、社会の即戦力としての能力を磨くことができます。

もちろん、教員免許、社会教育主事、博物館学芸員、図書館司書・学校図書館司書教諭などの免許も、所定の条件を満たせば取得が可能です。

土壌は文字通り地味なものです。各種の汚染や温暖化、砂漠化、生物多様性劣化といったさまざまな環境問題において、その解決に向けての鍵となる重要な存在です。この授業では、キャンパス内の雑木林の土壌を実際に2mほど掘って、本格的な土壌断面の観察を行います。



日本の土壌環境

- | | |
|------------|----------|
| 自然地理概説A* | 日本の植物環境 |
| 自然地理概説B* | 地域の生態環境 |
| 気候環境と生活 | 日本の土壌環境 |
| 沖縄の自然環境 | 第四紀の自然史 |
| 東京の自然環境 | 世界の地形 |
| 地表環境の生い立ち | 日本の水環境 |
| 地域の気候環境 | 海洋と陸水の科学 |
| グローバルな気候環境 | |

自然環境科目群

ヨーロッパ世界という、わが国とは全く異なった自然環境・歴史・文化・社会をもつ地域を正しく理解することを目的としますが、おそらく皆さんが初めて聞く意外な事実や素朴な疑問の解明などを交えた授業が展開されます。

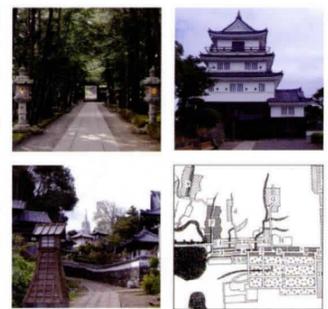


ヨーロッパの環境と人間生活

- | | |
|---------------|-----------------|
| 日本の地誌 | 北アメリカの環境と人間生活 |
| 日本の景観と文化 | 熱帯・乾燥地域の環境と人間生活 |
| 東京大都市圏 | オセアニアの環境と人間生活 |
| 世田谷の地誌 | 世界の社会と経済 |
| アジアの環境と人間生活 | 世界の民族と文化 |
| ヨーロッパの環境と人間生活 | |

地域環境科目群

日本の歴史の各時代を特徴づける景観を取り上げ、その景観復原の歴史地理学的方法を具体的に示しながら、景観形成の要因や社会経済的背景（人文社会環境）を考察し、それらの基盤となる自然環境についても検討します。門前町の発達、城下町の建築などについても触れます。



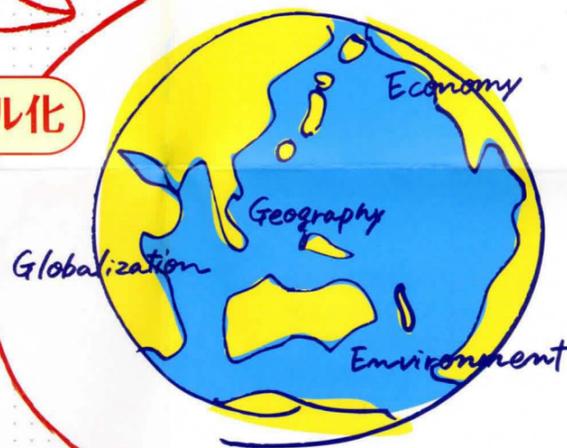
歴史景観と環境

- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 人文地理概説A* | 食と農の地理学 | 東洋史概説A |
| 人文地理概説B* | 農村空間と社会 | 東洋史概説B |
| 江戸東京の歴史地理 | 地域計画と景観 | 西洋史概説 |
| 歴史景観と環境 | 地域計画と住民参加 | 日本文化の歴史A |
| 経済と人間生活 | 地域環境保全論 | 日本文化の歴史B |
| サービスの地理学 | 環境問題とアセスメント | 日本の民俗 |
| 交通の発達と環境 | 自然保護と開発 | 文化と伝承 |
| レクリエーションと環境 | 社会環境と人間 | 日本史の中のジェンダー |
| 都市空間と社会 | 環境イメージ論 | 国際交流の歴史 |
| 都市空間と文化 | 旅の地理学 | 産業と流通の歴史 |
| 民俗学 | 環境経済学 | 考古学A |
| 文化人類学 | 日本史概説A | 考古学B |
| 環境と文化 | 日本史概説B | |

人間環境科目群

グローバル化

近年のグローバル化は「世界はひとつ」ということを、これまで以上に我々に実感させてくれます。それは良い面・悪い面の両面において、また人文環境・自然環境の両面においてです。影響の大きさも場所によって違います。まさに地理学的な見方・考え方が重要になる問題です。



地球・地域が抱える諸問題

地理学的素養の蓄積（上記の3専門科目群：自然環境科目群・地域環境科目群・人間環境科目群の履修）、地理学的方法の体得（下記の2科目群：情報調査科目群・調査研究科目群の履修）によって、地球・環境が抱えるさまざまな問題に迫ります。

地方都市の問題

世界の中では豊かな日本。しかし、この地域も同じように富の恩恵を受けているわけではありません。豊かな日本の中で、地方都市の工業や商店街の衰退が叫ばれるのはなぜでしょう。ここでも地理学的見方・考え方が重要です。どの地域も同じようになるのなら地理学はいりません。

環境問題

環境問題にはさまざまなものがありますが、それらは問題によってそれぞれ違った地理的な広がりを持っています。またその考察には分野横断的なアプローチを必要とします。地理・環境専攻では、大気、土地、生物、人間などのさまざまな「環境問題」について、地理学的な見方・考え方を軸に、取り組んでいます。

情報調査科目群

- | | | |
|----------|-------------|---------------|
| 地域調査法* | 社会調査とデータ分析法 | デジタルマップ製作法 |
| 自然環境調査法* | 計量地理学 | 環境リモートセンシング |
| 地図学 | 測量学1 | 環境リモートセンシング応用 |
| 地形図判読法 | 測量学2 | 地理情報システム |
| 環境データ分析法 | 測量実習1 | 地理情報システム応用 |
| 空中写真判読 | 測量実習2 | 洋書購読 |
| 統計情報学入門 | 測量実習3 | |
| 統計情報学応用 | 地図製作法 | |

環境リモートセンシング・環境リモートセンシング応用 ・地理情報システム・地理情報システム応用

GIS（地理情報システム）は空間的な広がりをもつさまざまな事象をデジタル化して、地図と有機的に結びつけるツールです。リモートセンシング、GISは、これからの地理・環境調査には必須の分野です。



調査研究科目群

- | | |
|-----------|---------|
| 地理学野外実習A* | 地理学演習2* |
| 地理学野外実習B* | 地理学演習3* |
| 地理学野外実習C* | 地理学演習4* |
| 地理学演習1* | 卒業論文* |

地理学野外実習A・B・C

各学年における必修の野外実習科目です。地理・環境専攻では野外学習が頻繁に行われ、地理学的な見方・考え方を現地で養います。野外実習は学年同士、学生と教員の交流の場でもあり、充実した学生生活の一コマとして、多くの学生に記憶されることでしょう。



卒業論文

4年間で体得してきた知識や方法を生かしてまとめあげるのが卒業論文です。まさに地理学的見方・考え方の集大成。他大学の卒業論文と比較しても恥ずかしくない力作揃いです。

●卒論タイトルの例

人文地理

- ・地方ローカル線の利用実態と課題 - 三陸鉄道を事例に -
- ・農産物直売所の現状と課題 - 千葉県直売所を事例に -
- ・千葉市における宿泊施設の立地展開
- ・小中学校校歌の歌詞から見た地域景観イメージについて - 茨城県南東部を例に -

自然地理

- ・裾礁海岸における海岸砂丘の発達 - 沖縄県多良間島を例に -
- ・山梨県芦川峡における河食ポットホルの分布状況と形態について
- ・埼玉県秩父盆地における山谷風について
- ・東京のヒートアイランド現象と風の影響について

環境研究

- ・東限におけるイヌガシ (*Neolitsea aciculata*) 個体群の分布と生育環境について
- ・日本でのオオカミ復元活動の現状とその可能性について
- ・千葉県松戸市松戸駅周辺におけるカラスの営巣木の分布とその環境について
- ・マウンテンバイクレジャーによる山地斜面の荒廃 - 専用コースにおける山道の荒廃状況から見た影響 -